

令和元年度 明石市議会建設企業常任委員会 議会報告会実施報告書

開催日時	令和2年2月6日（木）14時～15時24分	
開催場所	大蔵コミュニティセンター（明石市立大蔵中学校内）	
出席議員	班 長	坂口 光男
	司 会 者	井藤 圭順
	記 録 者	出雲 晶三
	そ の 他	(副委員長) 尾倉 あき子 (視察報告) 辰巳 浩司（春日井市） 宮坂 祐太（富士見市） (アンケート) 佐々木 敏（以上、建設企業常任委員） (応援) 丸谷 聡子 筒泉 寿一（以上、議会活性化推進委員）
参加人数	10名（朝霧校区連合自治町内会4名、人丸校区各町連絡協議会6名）	
行政視察の報告	<p>○春日井市「ニューモビリティタウンの取り組みについて」 辰巳委員：自動車メーカーや大学、交通事業者と協力して、外出促進による介護予防・運動及びコミュニケーション機会の増加・ニュータウンの魅力向上を目指し、自動運転技術をはじめとする、最新技術による快適なモビリティサービスの取り組みを行っている。</p> <p>○富士見市「デマンドタクシー（タクシー補助制度）について」 宮坂委員：通常のタクシー利用とほとんど変わることなく、単独乗車でタクシーを利用して、その運賃の一部を市が負担をするという形態でデマンドタクシーを運行している。</p>	
主な意見・提言と応答	<p>○グリーンスローモビリティの実証調査に関する意見</p> <p>【良い点】</p> <p>①住民の高齢化が進み、運転免許の返納を検討することが多い中、とても良い施策だと感じた。</p> <p>②急な坂道があるため、徒歩の場合は自宅から商業施設まで移動に数十分かかるが、非常に快適であった。</p> <p>【改善点】</p> <p>①目的地によっては、バス停まで行って他の交通機会に乗り換える必要があり、不便なところがある。</p> <p>②車体にドアがないため、利用者の安全性の確保、暑さ・寒さ対策が必要である。</p> <p>③乗降数は、出発・終着地点が最も多く、途中の停留所で乗れないケースがあったので、事前に座席状況が把握できると便利である。</p> <p>【その他】</p> <p>①利用料金は、路線バスと比較して、有料の場合ならば、1回あたり50～110円が考えられる。</p> <p>○交通施策に関する意見</p> <p>①交通施策+福祉施策という視点を持ってほしい。</p> <p>②高齢者等の移動支援サービスの取り組みを行っている「NPO法人 全国移動サービスネットワーク」の事例が参考になると考える。</p> <p>③市で交通施策に関する情報を持っている場合は、積極的に地域に教えてほしい。</p>	

辰巳委員：最寄りの鉄道駅までバスを使う地域では、日常生活で自家用車を使ってきたが、住民が高齢になり自家用車の使用が難しくなると買い物難民になる恐れがある。

明石・西明石・大久保・魚住・二見それぞれの地域の状況を踏まえて、それぞれの地域に合致した移動支援が必要である。移動支援の手段としては、鉄道・バスをベースとして、それぞれの地域の人の流れを把握したうえで、地域のニーズと現状とを比較し、足りていないピースを補完することが重要である。そのため、コミュニティバス、グリーンスローモビリティに限らず、商業施設や病院が運行する形態も視野に入れなければならないと考える。

佐々木委員：明石市の移動手段のあり方を検討する上で重要なことは、関係者が全部集まって皆で相談することであると思っている。デマンド交通を検討する中で、いろいろな交通機関があるが、タクシーが一番影響を受けるため、タクシー業界の方にも話し合いに参加していただく必要がある。

坂口委員長：今回の実証調査において、地元の協力がありがたかったという声を市から聞いた。運転手の休憩場所や車両の駐車場をはじめとして、地域の皆さんの協力もたくさんいただいた。今後、交通施策のあり方を考える中で、地域の方の協力をもっと必要ではないかと考える。

尾倉副委員長：明石ならではの市民の皆様が安心して暮らせる交通システムの構築に向けて、建設企業常任委員会としても、公共交通のあり方をしっかり学びながら、持続可能なまちづくりを進めてまいりたい。

明石市議会議長 様

令和2年2月6日

上記のとおり報告します。

建設企業常任委員長 坂 口 光 男